

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 さざんか)

事業所番号	0670101310		
法人名	医療法人 東北医療福祉会		
事業所名	フラワー吉原		
所在地	山形県山形市南館3丁目21番50号		
自己評価作成日	令和 4年 11月 1日	開設年月日	平成 15年 4月 10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様一人ひとりの出来る事の継続を支援し、その人らしさを大切にしながら安心して楽しく暮らせる場があるように、本人の気持ちの理解に努め、本人本位のより良いケアが実践出来るように日々取り組んでおります。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形市桜町四丁目3-10		
訪問調査日	令和 4年 11月 22日	評価結果決定日	令和 4年 12月 12日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所ではコロナ禍の中でできるだけ工夫を凝らしながら、特に「人間としての尊厳...最後までその人らしいあり方」という理念の実践を目指している。まず、日常生活において、作業・趣味・室内ゲームなど、利用者が楽しみながら心身機能を保持できるよう支援し、それを基に、最後までその人らしく役割を持ちながら生活できるよう支援している。また、支援の基盤となる家族との意識の共有化を図るため、毎月のお便りに写真を添え、担当者の一筆を添え、利用者の生活がわかるよう、コロナ禍の面会不足を補う工夫をしている。そしてまた、法人全体のサポートを得ながら、健康維持体制や病気が悪化した時の医療提供・連携体制に努力している。このことが、利用者家族、事業所の職員の安心感に繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
51	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	尊厳や権利、個性を尊重しながら地域の中で安心、安全な生活が継続出来るように、理念を事務所入り口に掲示している。毎月1回のユニット会議で理念の読み上げを行い、共通理解の確認と実践に努めている。	理念を玄関に掲示するとともに、ユニット会議において皆で読み上げている。また、ユニット会議では、理念に基づき定めたユニット目標の振り返りを行いながら、理念の実践につなげている。管理者は、現在のコロナ渦の中でもこれまでの生活が維持できるように支援することを大切にしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス感染防止の為、通院以外は外出は自粛している。近所の店より差し入れを頂くことがある。	コロナ禍以前は、季節的な行事に参画したり、多くの交流があった。現在は控えているが、近隣商店から差し入れを頂戴したりしている。散歩や商店訪問の際などには積極的に挨拶を行うなど、地域の一員であり続けるように努力している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ過で外出が出来ず、季節の行事も控えめにしている。今年度は通信紙が発行出来ていないため、来年度は発行出来るようにしていきたい。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催し、活動状況や入居者、職員の状況等を報告している。又、自己評価や外部評価の結果を報告し、意見や要望等を取り入れて、サービスの向上に活かすように努めている。	2ヶ月に1回、書面で運営推進会議を開催している。委員は、町内会長、各地区民生委員、複数地域住民や包括職員、利用者家族など多数で構成している。報告事項は、運営状況、行事、ヒヤリハット事例、生活写真など様々である。電話で意見・要望を頂き、サービスの向上に活かすように努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者や電話や訪問等で話し合いを行いながら対応し、協力関係を築けるように努めている。介護相談員を受け付けていたが、コロナウイルス感染予防の為、現在は介護相談員の訪問を中止している。	現在は、市の介護相談員の来所はない。利用者の制度上の個別的な課題に関する照会や窓口への訪問などの際に、事業所の状況を報告し、関係情報を交換しながら、協力関係を保持できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>日中は玄関の鍵は常に開放しており、自由に外へ出入り出来るようにしている。帰宅心で外に出て行うとする入居者には、見守りや付き添いを行っている。問題が起きた場合等は、報告書を全員で把握し、対策についての話し合いは早急に行っている。</p>	<p>理念の「尊厳や権利」をまもるため、「身体拘束廃止適正化委員会を定期的開催し、拘束に繋がる事項の未然防止を図っている。身体事故発生の恐れのある利用者や帰宅願望のある利用者等への対応は、普段の話し合いを大切に情報の共有化を図っている。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>入居者毎に支援方法を検討し、防止に努めている。けがなし委員会で話し合いをしたり、ユニット会議で検討し防止に努めている。</p>	/		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>制度を利用している方もいるが、全職員が理解出来ていない。今後学ぶ機会を持ち、活用出来るようにしていく必要がある。</p>	/		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には十分な時間をとり説明を行うようにしている。利用料金や緊急時の協力要請、契約解除等について、詳しく説明し同意を得ている。利用者や家族の不安や疑問を尋ね、一緒に考えて理解、納得を図っている。</p>	/		
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居者との会話や態度から本人の思いを把握できるよう努めている。家族には面会来所時に近況報告を行ったり、電話等でも様子をお伝えし意見等を伺うようにしている。</p>	<p>コロナ禍の中で、毎月の利用者家族へのお便りは、「生活の様子」「スタッフから家族へ」「健康状況」を写真付きで送付している。また、前回の目標達成計画を踏まえてオンライン面会も可能にし、家族の安心感に繋げている。意見等はその際に伺うように努力している。更に家族へのアンケート調査を検討中である。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会議や日々の会話の中で、職員の希望等を聞き、活かすようにしている。又、介護福祉士や介護支援専門員の資格取得を推奨し、各自が向上心を持って働ける環境整備に努めている。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ感染が流行していたり、人員の関係で外部研修になかなか参加することが出来ていない。資料等にてスタッフ間で話し合っている。	人事評価の際にチェック表に基づき職員一人ひとりのケアを振り返り、課題を明らかにするとともに自己啓発と資格取得を推奨している。毎月のユニット会議において、基本的な知識とノウハウについて計画的に研修を行っている。外部研修の活用については、コロナ禍の状況を踏まえて対応する予定である。		
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	コロナウイルス感染予防の為、外部との交流の機会は少なく、又参加を自粛している。	従前は、山形県グループホーム連絡協議会に参加したり、法人関係事業所の研修会や実習に参加していたが、現在は、感染症の拡大状況を踏まえて自粛し、情報交換の場が確保できない状況にある。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用前に面談を行い、ニーズを把握しケアプランを作成している。ケアプランを塾に、入居者のニーズに添えるようアセスメントを繰り返し、個別プランの実践に努め、信頼関係作りに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との連絡を密にとり、要望等に耳を傾け、ケアプランに反映させている。面会来所時や1ヶ月毎の手紙などで近況報告を行い、信頼関係作りに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実態調査訪問時に実情の改善や支援を、本人、家族との話し合い、支援の見極めに努めている。又、デイケアの利用や福祉用具の使用等、利用者や家族のニーズに合わせて対応を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者が主体であることを忘れず、入居者から教わる場面や頼る場面を作り、個々に合った援助で互いに協力しながら和やかに過ごせるよう努めている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時は近況報告を行い、家族とのコミュニケーションを図りながら信頼関係を築き、本人と一緒に支えていけるよう、協力関係構築に努めている。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、親族、知人の方が気軽に面会に来て頂き、関係が継続できるように努めていたが、コロナウイルス感染予防の為、面会制限や面会時間を短縮している。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員同士が調整役となり、皆で楽しく過ごす時間や気の合う者同士で過ごす場面を作っている。状態によっては食席移動や配置変えをすることもある。食事準備は個々の能力を見極めて役割を決め、食事にむけて共同作業を行っている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もご家族に状態をうかがったり、家族の相談にのるように努めている。			

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中でも言葉や表情からそれぞれの思いや希望等を把握するように努めている。思いや希望を記録に残し、情報を職員が共有し毎月のユニット会議で個別ケアを検討し確認している。	理念の「最後までその人らしく」生活できるよう、利用者の思いを汲み取っている。個人毎の記録も充実している。職員は普段の関りから利用者の希望や出来る事、好み、能力を把握するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の事前面談で本人や家族から生活歴や生活スタイル、趣味やサービスの利用状況等を聞き取りしている。又、会話の中からも情報の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれの生活リズムを把握すると共に、表情や行動などからも本人全体把握するように努めている。本人の希望や出来る事、好み、能力を見極めて把握するように努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の関わりの中で感じた事、気付いた事、工夫を記録に残し、職員が情報を共有しユニット会議で意見交換を行っている。又、家族の面会時や電話で意向を聞き、意見を反映させるように努めている。	日々の生活の記録を踏まえ、3か月毎に、モニタリング、カンファレンスを行い、計画の見直しを行っている。この際は、家族の意見を踏まえつつ、特に、利用者が「その人らしく生き」られるよう、「機能の低下防止」「できる役割の遂行」を念頭に、職員の自由闊達な意見を引き出している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルを用意して食事量、排泄身体状況、日々の暮らしの様子、言葉、エピソードを記録している。職員の気づきや工夫も記載し、介護計画の見直しや評価に役立てている。			
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者が地域生活を継続していく為に、周辺施設や商店、民生委員等の協力を得ながら支援を行っている。			
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望する医療機関となっており、協力医の往診を受けている方もいる。状態変化があれば主治医や家族と相談し対応を行っている。受診結果は電話や文書で家族に報告している。	本人や家族が希望する医療機関の治療を、多くは職員の同伴で受けている。協力医の往診も月に2回行われている。医師にはバイタル情報を提供し、診査結果はきちんと纏められている。医療機関との連携が家族の安心につながっている。		
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>家族や医療関係者と情報交換を行いながら、速やかに退院出来るよう支援している。</p>			
32	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化した場合や看取りに関して指針を定め、家族から同意をもらっている。状態の変化があるごとに、家族の意向や本人の思いを尊重し医療機関と連携を図りながら今後について検討するようにしている。対応困難な事や職員の不安等を家族に伝え、現状を理解してもらえるよう努めている。</p>	<p>重度化や看取りについては、指針に基づき、家族や医療機関と連携しながら適切に対応している。早い段階から繰り返し、家族・医療機関との話し合いを行い、方針の共有に努めている。看取りも行っている。</p>		
33		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急時の対応マニュアルを整備し、周知徹底を図っている。</p>			
34	(13)	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>コロナ禍の為、ユニット毎に実施し避難誘導の方法、経路の確認、消火器の取り扱い等の確認を行っている。年2回消防訓練を行うようにしている。</p>	<p>年に2回、ユニット毎に、火災想定の玄関までの避難、避難方法の確認、器具利用などの訓練を行っている。過去には、地震や水害を想定した訓練も実施している。水や食料の備蓄を行っている。</p>		
35	(14)	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>それぞれの誇りやプライバシーを損ねないような言葉掛けを心掛けている。又、状況によっては見守りを行うこともある。</p>	<p>事業所理念の「人間としての尊厳」を目指し、ユニット会議で研修するとともに、特に言葉遣いやトイレでの接遇について振り返りを行い、不適切なケアについて話し合っている。言葉使いなど共通の理解を得て、統一的な支援を実践できるよう努力している。</p>		
36		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>日常生活の中で能力に合わせて衣服や飲み物メニューを選ぶ等、自己決定する場面を作っている。又、会話の中から希望や思いを聞き出せるよう支援している。</p>			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その時の気持ちを尊重して出来るだけ本人の希望に添った支援を行っている。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えは基本的に本人の意向で決めて頂き、必要に応じて職員が支援している。又、希望時には理美容室を利用したり、ホームに来て頂いたりし、散髪して頂いている。顔拭き、髭剃り、顔そり、爪切り等、ユニットの目標にあげている。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、盛り付け等をそれぞれの出来る事を見極めて共に行い、食事と同じテーブルで食べている。献立によっては本人の好みに合わせて味付けを変えたり、麺を御飯に変更し提供している。片付けは出来る範囲で手伝って頂いている。食事を一日の大切な活動の一つとしている。	三食とも事業所内で調理されている。メニューも季節感に溢れ多彩である。利用者の習慣・希望も踏まえ対応している。調理作業や準備片付作業に利用者も参加し、家庭的な食事となるよう努力している。行事食や出前の活用など、コロナ禍の中でも楽しい食事となるよう工夫している。		
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者に合わせた食事量を盛り付けし、毎食食事摂取量を記入し、情報が共有出来るようにしている。咀嚼状態に合わせて刻み食にしたり、飲み込みの悪い人にはとろみをつけたりして必要に応じて介助を行っている。定期的に管理栄養士にアドバイスを頂いている。			
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨き、義歯洗浄の声掛けを行っている。出来ない方には介助支援を行っている。就寝前は義歯洗浄剤に浸し除菌洗浄を行っている。			
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、排泄パターンや時間で声掛けや誘導するなどし、出来るだけトイレで排泄が出来る様に支援している。又、個々に合った紙パンツやパットが使用できるように随時話し合い検討している。	高齢化で徐々に厳しくなっているが、「出来るだけトイレで出来るように支援している。排泄チェック表を活用し、適時の声掛けや誘導など、具体的な工夫を話し合いながら、自立に向けた支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事やおやつ以外にもお茶等を勧めて水分補給に努めている。水分摂取の少ない方はその方の好む物を提供している。家事動作等を通し、適度な運動の機会を設けている。又、便秘傾向の方は、状態に応じて下剤を調節し便秘予防に努めている。			
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者の希望時間に合わせて入浴して頂いている。入浴拒否のある方にはタイミングや言葉掛けを工夫し、気持ちよく入浴して頂けるように支援している。状態に合わせてシャワー車椅子を使用したり、安全に入浴出来るよう支援している。	なるべく利用者の希望に合わせながら、安全に楽しく入浴できるよう支援している。声かけの工夫を話し合ったり、職員二人で支援したり、入浴剤や変わり湯を活用したり、できるだけ入浴し、清潔を保てるよう努めている。		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるように努めている。又、ご自身のリズムで昼寝をされたり、傾眠されたりしている方や足の浮腫のある方などに臥床して頂くようにしている。			
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報書をファイルに整理し確認している。薬準備、確認をダブルチェックで行っている。服薬時は日付、氏名を2人で確認してから与薬している。薬の変更等あれば申し送りや連絡ノート等でスタッフ全員に伝わるようにしている。			
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事作りや洗濯物干し、畳み方、掃除等それぞれに合った出来る事をお願いし、その都度感謝の言葉を伝えるようにしている。趣味活動、散歩や音楽鑑賞等の楽しみ事が継続出来る様に支援している。			
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルス感染予防の為、外出は自粛しているが、気分転換にドライブに出かけたりしている。感染予防に努めながら、デイケアに通っている方もいる。	感染予防のため外出を控えており、工夫を凝らしている。中庭でのランチやお茶で外気に触れている。また、付近の公園の花見や、紅葉ドライブに出かけて気分一新を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	自己管理出来る方は所持して頂き、自己管理が出来ない方は事務所で管理している。			
50		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	希望に応じて電話や葉書、手紙の支援を行っている。現在2名携帯電話を使用している方がいる。			
51	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	カーテンで光を調整したり、温度、湿度を確認し調整している。利用者や行事に合わせた装飾品や花を飾る等、季節感を感じられるようにしている。なじみの物を置くなどして、落ち着いた雰囲気にも努めている。	共用の居間は、温度、湿度が管理され、換気も行われている。また、季節の花で飾られ、壁には絵や写真などが貼られ、季節感がある。そして、テーブルやソファが置かれ、畳のスペースもある。利用者は、思い思いの場所で過ごす事が出来るように工夫されている。		
52		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	玄関先に椅子を置いたり、廊下やリビングにソファや椅子を置き、一人で過ごしたり、他入所者とゆったりと過ごせるようにしている。			
53	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	写真や使い慣れた家具、電化製品、馴染みの品等を持ち込んで頂き、安心して居心地良く過ごせる様に努めている。又、居室でゆっくり趣味の継続が出来るよう配慮している。	居室には、利用者が使い慣れたなじみの家具や電気製品、仏壇などが持ち込まれ、壁には、懐かしい写真などが貼られている。自分の心地よい居場所として工夫されている。清掃にも配慮されている。		
54		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	台所の流し台の高さは入居者が作業を行いやすいように作られている。浴槽も跨ぎやすいように埋め込み式になっている。トイレは車椅子の方も使用しやすいように引き戸の広いトイレも設けている。要所に手摺を設置し、安全確保と自立支援に配慮している。			